

「『C Iによる景気の基調判断』の基準」の改善について

1 今後の改善の方向性

C Iは景気に敏感な指標の量的な動きを合成した指標であり、主として景気変動の量感を測定することを目的としていることを踏まえると、今後、C Iを用いた基調判断についても、変化の方向だけでなく、景気変動の量感を反映させることを検討したいと考える。

2 具体的な試作例

・景気変動の量感を反映させる基準を追加

「改善」については、「大幅な改善」及び「緩やかな改善」を、同様に「悪化」についても、「大幅な悪化」及び「緩やかな悪化」の量感を表す基準を新たに設ける。

具体的には、現行の「基準」に以下のような新たな数値基準を追加する。

- * 3ヶ月後方移動平均が前月差で3標準偏差分以上、上昇した場合には「大幅な改善」、前月差で1(0.5)標準偏差分以下の場合には「緩やかな改善」とする。

また、「前月踏襲」(当月C I、3ヶ月後方移動平均の一方または両方が下降し、かつ、「弱含み」には該当しない場合)の場合にも、「緩やかな改善」とする。例えば、改善の後「前月踏襲」が該当した場合には、「緩やかな改善」となる。

- * 仮に、「前月踏襲」をそのまま適用すると、「改善」の後に指標がマイナスとなった場合に「改善」のままとなる。しかし、指標が小幅なプラスとなった場合には「緩やかな改善」となる。この両者が不整合なため、「前月踏襲」の場合にも、「緩やかな改善」とした(「悪化」の場合も同様の考え方とする)。

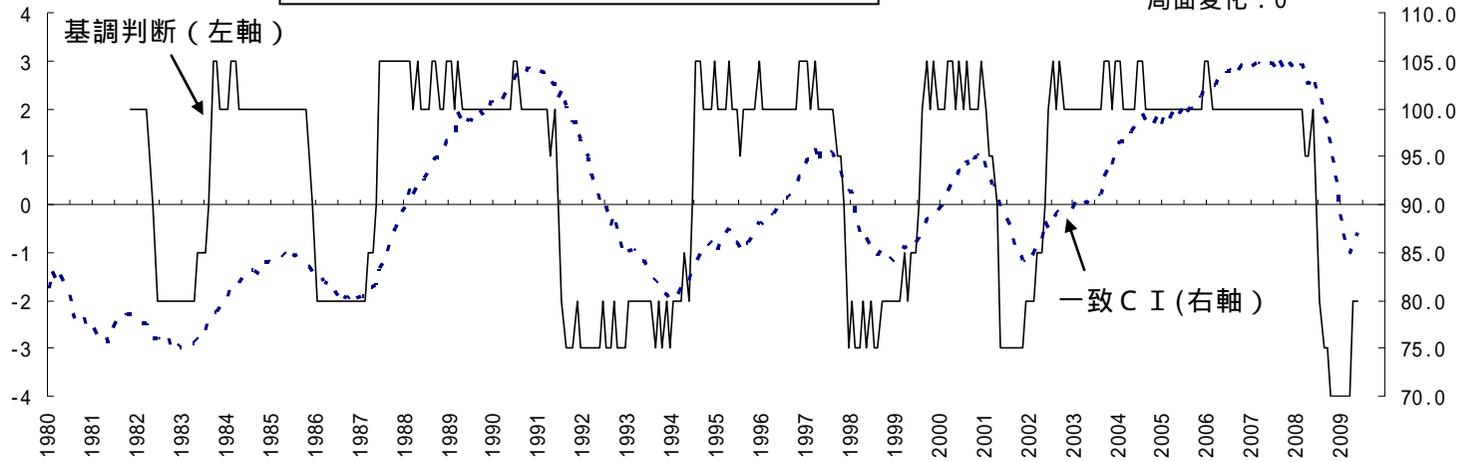
3 問題点

「緩やかな改善(悪化)」が頻繁に生じ、また、「改善(悪化)」と「緩やかな改善(悪化)」との間の判断の変更が頻繁になされてしまう。

一致C Iと基調判断の基準（試作1）

- ・ 3標準偏差分以上 「大幅改善（悪化）」
- ・ 1標準偏差分以下 「緩やかな改善（悪化）」
- ・ 「前月踏襲」 「緩やかな改善（悪化）」

- 大幅改善：4
- 改善：3
- 緩やかな改善：2
- 足踏み：1
- 大幅悪化：-4
- 悪化：-3
- 緩やかな悪化：-2
- 下げ止まり：-1
- 局面変化：0



一致C Iと基調判断の基準（試作2）

- ・ 3標準偏差分以上 「大幅改善（悪化）」
- ・ 0.5標準偏差分以下 「緩やかな改善（悪化）」
- ・ 「前月踏襲」 「緩やかな改善（悪化）」

- 大幅改善：4
- 改善：3
- 緩やかな改善：2
- 足踏み：1
- 大幅悪化：-4
- 悪化：-3
- 緩やかな悪化：-2
- 下げ止まり：-1
- 局面変化：0

